

市立伊勢総合病院

○ 業務の概要

市立伊勢総合病院は、二次救急医療を始めとした地域の中核病院として、市民の健康増進と生活の質の向上を目指し、地域医療の継続発展を図るとともに、公営企業としての効率性を高めるよう努めてきた。

本年度は、市立伊勢総合病院経営強化プランの策定や救急医療体制の強化を図るため、救急センターを新たに設置するとともに、新型コロナウイルス感染症対策としての病床確保を継続するなど、地域医療の確保及び予防医学に取り組んだ。また、安全・安心で高度な医療を提供するため、超音波画像診断装置及び白内障・硝子体手術装置等の整備を行った。

利用状況は、入院患者数 84,566人（1日平均 231人）、外来患者数 128,298人（1日平均 528人）、健診者数 15,011人（1日平均 52人）となった。前年度と比較すると、入院患者数で 2,374人増加、外来患者数で 1,803人増加、健診者数で 113人減少した。

収支状況は、収益的収支において、消費税を除き収入額 8,695,249,519円（対前年度比 2.7%減）に対して、支出額 8,876,915,053円（対前年度比 2.3%増）となり、差引 181,665,534円の純損失となった。また、医師及び看護師奨学金の返還債務の免除により発生した資本剰余金の処分額 29,040,000円を含め、当年度未処理欠損金は 1,716,905,737円となった。前年度と比較すると、収入においては、患者数の増加や診療単価の上昇により、入院収益、外来収益及び健診収益で増収となったが、新型コロナウイルス感染症対策に関連した補助金では減収となった。一方、支出においては、材料費及び給与費で増額となった。

資本的収支においては、収入額 627,524,300円、支出額 1,151,807,455円の執行となった。

今後も、厳しい病院経営となることが予測されるが、引き続き、医師確保に努めるとともに、医療体制の充実強化、質の高い医療の提供、地域医療の推進、病院経営の健全化に取り組んでいく。

1 職員に関する事項

（各年度3月31日現在）

区分	医師	医療 技術職	看護職	事務 その他	計	会計年度 任用職員	合計
令和5年度	人 54	人 92	人 (4) 244	人 (3) 28	人 (7) 418	人 185	人 (7) 603
令和4年度	人 56	人 90	人 (4) 245	人 (2) 29	人 (6) 420	人 174	人 (6) 594

※（ ）は、外書きで再任用短時間勤務職員を表す。

2 経理の状況

(1) 令和5年度伊勢市病院事業損益計算書

令和 5年 4月 1日から 令和 6年 3月31日まで			
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
病院事業費用	円 8,876,915,053	病院事業収益	円 8,695,249,519
医業費用	8,263,386,525	医業収益	6,739,320,867
給与費	4,349,773,267	入院収益	4,688,477,527
材料費	1,533,622,687	外来収益	1,846,754,754
経費	1,356,262,548	他会計負担金	56,658,000
減価償却費	987,269,609	その他医業収益	147,430,586
資産減耗費	766,973	健診収益	373,002,086
研究研修費	35,691,441	健診収益	373,002,086
健診費用	211,539,738	医業外収益	1,575,196,216
給与費	141,821,922	他会計補助金	386,262,640
材料費	7,569,173	他会計負担金	481,856,000
経費	45,796,793	県補助金	210,738,860
減価償却費	16,351,850	国庫補助金	3,188,740
医業外費用	401,988,790	長期前受金戻入	452,672,946
支払利息及び 企業債取扱諸費	60,433,676	その他医業外収益	40,477,030
雑損失	304,430,236	特別利益	7,730,350
負担金	2,492,158	固定資産売却益	7,730,350
医業外雑費	34,632,720	当期純損失	181,665,534
合 計	8,876,915,053	合 計	8,876,915,053

(2) 令和5年度伊勢市病院事業貸借対照表

令和6年3月31日			
借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
固定資産	円 15,493,840,041	固定負債	円 11,860,228,349
有形固定資産	14,993,103,728	企業債	10,003,340,466
土地	1,570,959,936	建設改良等企業債	10,003,340,466
建物	12,588,711,881	引当金	1,856,887,883
減価償却累計額	△1,798,588,936	退職給付引当金	1,856,887,883
構築物	1,530,514,503	流動負債	1,305,089,130
減価償却累計額	△264,776,058	企業債	460,763,262
器械備品	5,468,777,847	建設改良等企業債	460,763,262
減価償却累計額	△4,104,273,956	未払金	583,886,219
車両	8,809,691	医業未払金	553,839,639
減価償却累計額	△7,031,180	未払消費税	9,534,000
無形固定資産	3,562,685	その他未払金	20,512,580
電話加入権	3,562,685	引当金	257,470,000
投資その他の資産	497,173,628	賞与引当金	214,848,000
長期貸付金	308,098,500	法定福利費引当金	42,622,000
基金	189,075,128	その他流動負債	2,969,649
流動資産	2,711,049,948	預り金	1,969,649
現金預金	1,532,728,773	預り保証金	1,000,000
現金	1,329,000	繰延収益	1,466,261,281
預金	1,531,399,773	長期前受金	4,229,232,233
未収金	1,092,391,012	長期前受金収益化累計額	△2,762,970,952
医業未収金	1,157,358,126	資本金	4,254,000,000
医業外未収金	29,520,843	剰余金	△680,688,771
その他未収金	1,618,800	資本剰余金	1,036,216,966
貸倒引当金	△96,106,757	受贈財産評価額	141,807,695
貯蔵品	85,930,163	他会計補助金	89,845,648
薬品	19,122,833	工事負担金	53,395,358
診療材料	63,870,046	寄附金	83,046,100
その他貯蔵品	2,937,284	他会計負担金	668,122,165
		欠損金	1,716,905,737
		当年度未処理欠損金	1,716,905,737
合計	18,204,889,989	合計	18,204,889,989

3 病院利用状況 令和5年度

診療科目	入院	外来
内科	人 30,907	人 26,943
循環器内科	7,702	6,301
外科・消化器外科	6,273	8,086
整形外科	24,090	27,939
形成外科	719	2,697
皮膚科	1,176	9,673
泌尿器科	3,150	10,180
婦人科	—	2,559
小児科	—	132
耳鼻いんこう科	—	3,871
眼科	1,314	6,859
精神科	—	3,936
脳神経外科	—	310
歯科口腔外科	1,215	10,610
放射線科	—	2,237
麻酔科	—	848
脳神経内科	—	4,728
ホスピス科	1,917	6
リハビリテーション科	6,103	383
呼吸器外科	—	—
計	84,566	128,298

4 物品購入に関する事項（金額100万円以上）

購入年月日	器械備品名	規 格	金 額
5. 8. 1	デスクトップパソコン	(株) 日本HP HP PRO SFF 400 G9	円 1,650,000
5. 9. 5	ノートパソコン	Dynabook (株) dynabook B65/HV	1,164,570
5. 9.22	電動油圧手術台	ミズホ (株) MOT-5602BW	4,258,100
5.10.17	能動型下肢用CPM装置	日本シグマックス (株) ARTROMOT-K1	2,244,000
5.11.29	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン (株) Venue R4	9,790,000
5.11.29	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン (株) Venue G0 R4	4,840,000
5.12.12	院内トータル物品管理システム	(株) 湯山製作所 MELS	2,970,000
5.12.20	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス (株) ENF-VH	2,970,000
5.12.28	白内障・硝子体手術装置	エイエムオー・ジャパン (株) VERITASビジョンシステム	19,470,000
5.12.28	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン (株) Vivid S60N Ultra Edition	14,685,000
6. 1.31	デメーヨー型 ニーポジショナー	(株) 根本商会 D2 803-114	4,455,000
6. 2.15	超音波画像診断装置	富士フィルムヘルスケア (株) ARIETTA 650 DeepInsight	13,970,000
6. 2.15	超音波画像診断装置	富士フィルムヘルスケア (株) ARIETTA 850 DeepInsight	19,712,000
6. 2.28	臨床用ポリグラフ	日本光電工業 (株) RMC-5000	18,700,000
6. 3.21	生物顕微鏡	(株)エビデント BX53LED-33NC	2,035,000
6. 3.25	自己血回収装置	泉工医科工業 (株) セルセーバーエリートプラス	4,895,000
6. 3.28	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン (株) Vscan Air CL	1,142,680
6. 3.28	MRI装置バージョンアップ	シーメンスヘルスケア(株) MAGNETOM Aera	11,770,000

5 工事関係

施行場所	工 事 名	工 事 概 要	金 額	着 工	完 工
楠 部 町 内 地	伊勢総合病院5階スタッフステーション間仕切設置等改修工事	スタッフステーション間仕切設置等改修工事一式	円 1,265,000	5. 7. 18	5. 8. 28

○ 医師確保対策関係

病院事業の健全経営と地域医療体制の確立のため、医師確保対策の1つとして医師奨学金制度を運用している。令和5年度は医師奨学生1名（令和6年度1学年）を新たに選考し安定的な医師確保に努めた。

<令和5年度 医師奨学生への奨学金貸与状況>

学 年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
奨学生人数	2名	1名	0名	2名	2名	2名	9名

その他の取り組みとして、三重大学や藤田医科大学等の関係機関へ訪問のうえ、派遣依頼の働きかけを行った。

また、市健康福祉部と連携して実施している寄附講座においては、藤田医科大学に加えて、令和5年度から新たに三重大学と「南勢地域医療学寄附研究部門」を設置し常勤医師の継続派遣に繋がっている。そのほか内科（総合診療科）の後期研修医3名を採用できたことや初期研修医についても就職説明会への参加や病院見学者の受け入れに努めた結果、4名を採用することができ若手医師の確保に努めた。

○ 地域医療連携関係

1 病診・病病連携

紹介患者の予約受付時間を引き続き18時30分まで1時間30分延長し、また、更なる連携強化のため定期的に地域の医療機関等の訪問を行い、紹介患者数の増加に繋がった。

地域における第一線の医療機関である「かかりつけ医」を支援し、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院として、三重県より承認された『地域医療支援病院』の承認の継続に向け、紹介患者数の増加に努めるとともに、地域の医療従事者の質の向上のための研修会をオンライン形式、対面形式、研修動画の配信を併用し開催した。

リハビリテーション科医師・専任の社会福祉士等が大腿骨頸部骨折地域連携パス連携会議（まいわし医療連携会）に出席し、紹介元医療機関及び地域の回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関と連携し、治療経過の共有を行い、患者に切れ目のない質の高い医療を提供した。

<診療所等からの紹介患者数>

区 分	紹介患者数（延べ）
令和5年度	11,499 人
令和4年度	11,179
令和3年度	10,683

2 患者相談

患者支援センターに社会福祉士4名・看護師3名を配置し、入院前・入院時における患者・家族等への支援を通じ、早期・円滑な相談対応、入退院支援に介入できる体制を構築した。また、ホスピス病棟については、専任の社会福祉士を配置し、本年度128件の問い合わせや相談に対応し31名の外来面談を行った。

<患者相談・支援対応件数>

区 分	在宅復帰	施設入所 ・ 転院	入院相談	外来相談	経済的 問題	その他	合計
令和5年度	件 4,504	件 6,253	件 1,316	件 1,718	件 334	件 2,079	件 16,204
令和4年度	4,249	6,387	1,371	1,661	349	1,694	15,711
令和3年度	4,053	5,772	1,371	1,442	352	1,463	14,453

○ 救急医療関係

令和5年4月より二次救急医療について、これまで週1回の輪番当番日（金曜日、土曜日を隔週で実施）に加えて、毎週火曜日を担うこととなった。これに伴い、救急体制を強化するため、院内全ての部門の連携強化と救急業務の質向上を目指し、新たに「救急センター」を設置した。

<救急患者数>

区 分	救急患者数	うち救急車等搬送患者数
令和5年度	6,426 人	3,300 人
令和4年度	4,724	2,471

○ 健診・人間ドック関係

各種疾患や生活習慣病の早期発見・早期治療により、地域住民の健康増進の一助となるべく、各健保組合等から受託する人間ドックをはじめ、全国健康保険協会の生活習慣病予防健診や法定健診等を実施した。

本年度も昨年度に引き続き、関連学会等の指針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、受診者が安心して健診等を受けていただけるよう最善を尽くした。受診者数は15,011人で、前年度と比較すると113人の減少となった。

健診等の結果が要精密検査や要経過観察の判定となった方には、二次検査（外来診療）の受診案内を行い、疾病の早期治療につながるよう努めた。

1 受診者状況

区 分	開設日数	受 診 者 数			
		人間ドック	健診等	その他	計
令和5年度	286 日	7,338 人	7,222 人	451 人	15,011 人
令和4年度	290	7,080	7,321	723	15,124
令和3年度	283	7,017	7,223	497	14,737

※人間ドック…胃検査、脳ドックを実施したコース

※健診等…胃検査、脳ドックを実施しなかったコース

※その他…インフルエンザ、破傷風、B型肝炎等ワクチン接種、B型肝炎検査他

2 二次検査受診者数

区 分	受診者数（延べ）
令和5年度	1,602 人
令和4年度	1,810
令和3年度	1,920

○ 新型コロナウイルス感染症対策関連

新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。

1 感染症対策

(1) 新型コロナウイルス感染症患者等受入病床の確保

・期 間 令和5年4月1日から令和6年3月31日

(2) 正面玄関での発熱チェックの実施

・期 間 令和5年4月1日から令和5年5月2日

2 療養環境

(1) オンライン面会の実施

・期 間 令和5年4月1日から令和6年3月31日

・件 数 182件

3 新型コロナウイルス感染症対策に関連した補助金収入額

区 分	補助金収入額		計
	収益的収入	資本的収入	
県補助金	206,408,000 円	0 円	206,408,000 円